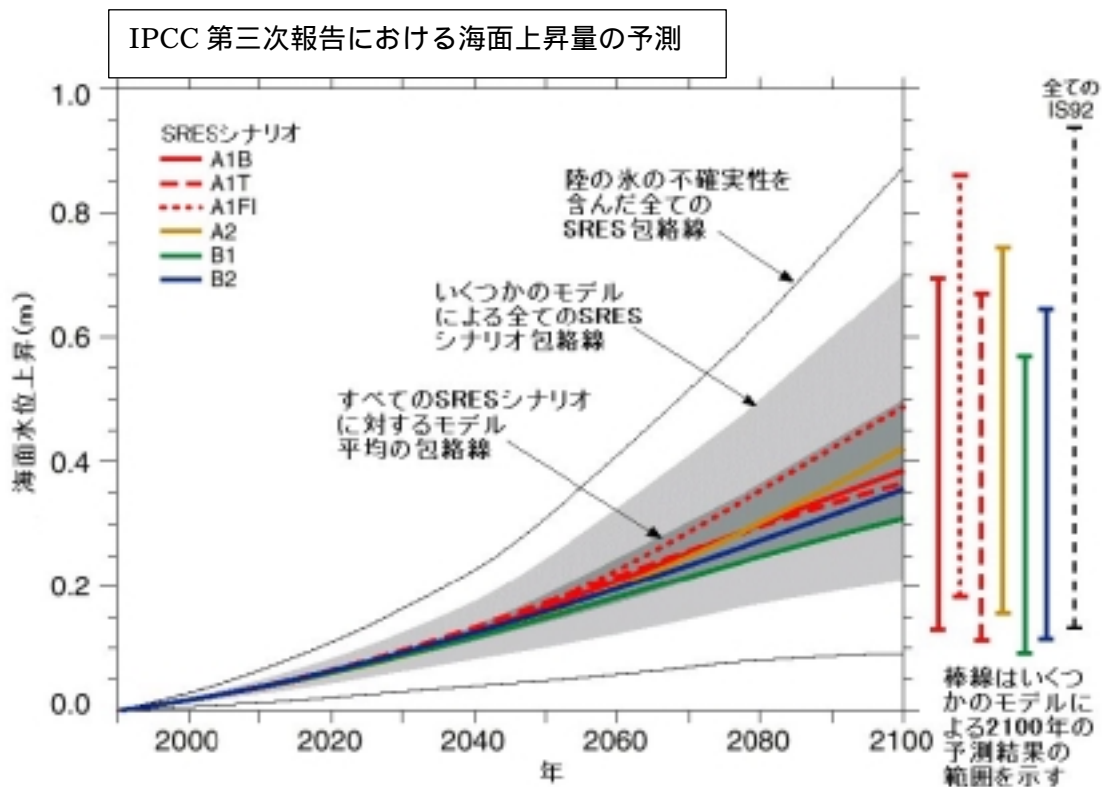


2. 検討シナリオの設定

対策に時間軸を検討するために設定

海面上昇以外の要因による変化や予測精度の問題もあるので、2100 年を見通したシナリオを設定(上昇現象の現れ方や予測精度の向上にあわせて適宜ローリングすべきものである)。



出典：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）
第三次評価報告書 第一次作業部会報告
政策決定者向けの要約（気象庁訳）

検討シナリオ 1990 年に対する 2100 年の海面上昇量

高位：陸の氷の不確実性を含んだすべての S R E S シナリオ包絡線 (0.90m 0.88)

中位：すべての S R E S シナリオに対するモデル平均の包絡線 (0.50m)

低位：すべての S R E S シナリオ包絡線 (0.10m 0.09m)

3. 検討海面上昇値の設定

海面上昇の影響把握のために設定

対策を検討するための目安として設定

検討海面上昇値

: 0.10m : 0.30m
: 0.50m : 0.90m